

## 平成26年度 第4回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成26年9月29日(月) 13時～15時
場 所	くわなメディアライヴ2階 健康教育室
出席委員	伊藤香、伊藤直和、稲垣陽子、大橋了子、加藤隆明、小竹広行、下間賢了、津田浩二、野口典子(◎)、濱内洋孝、松岡亜由美、松岡典子(○)、松岡初文、水谷秀史、水谷美保、横山悦子、渡部美紀子(敬称略、五十音順)(◎:委員長、○:副委員長)
傍聴人数	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 議事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 計画に記載する「量の見込み」「確保方策」について(中間とりまとめ)(資料1)</li><li>(2) 桑名市子ども・子育て支援事業計画(仮称)の検討について【グループワーク】(資料2)</li></ol></li><li>3. その他</li><li>4. 閉会</li></ol>

## 1. 開会

(野口委員長)

お暑い中お集まりいただきありがとうございます。皆さんのところにはかなり分厚い資料が届いているかと思いますが、事務局の説明をじっくり聞きながらご意見を伺っていきたいと思います。今日の議題は2つですが、内容がしっかりとありますので、よろしくご審議いただきたいと思います。

## 2. 議事

(1) 計画に記載する「量の見込み」「確保方策」について(中間とりまとめ)(資料1)

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

量の見込みと確保方策は、ニーズ調査結果を国のワークシートに当てはめていくと、桑名市が今後どのように施策を展開すべきかを、国ベースで考えた場合の1つのモデルとして算出される。何をどのように整備していくかの一例が見えると思うので、よく確認していただきたい。

(水谷秀史委員)

資料1の16頁について、9月17日に内閣府から発表された「私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行に関する意向調査の結果」を補足で紹介したい。『新制度に移行するか』という問いに対して、回答数6,805園のうち、「移行する」と回答したのが795園(11.7%)、「移行する方向で検討中」と回答したのが710園(10.4%)、これらの合計22.1%が検討中を含めて来年度に新制度に移行する。これに対し、「移行しない」と回答したのは5,300園、77.9%を占めている。国が打ち上げた子育て新制度に、民間がなかなか乗ってきていないのが現状となっている。桑名市も同様に新制度に移行する私立園はないため、資料1の16頁の定員数は1,490人のままとっている。内閣府が急ぐ割には制度ができてこない、そのために園児の募集ができないなど色々な理由があると思う。来年度の園児募集は我々は完了しているが、もし新制度に乗ると決めていたら、まだ募集も始められていない状況にある。これも乗り切れなかった理由の1つなので、現状としてご認識いただきたい。

また、内閣府は、保護者にそういう幼稚園の動向を知らせてくださいよという企画をしており、9月12日に東京で開催されたジャムセッションに参加してきた。その中で課題として出されたのが、保護者にどのように説明して良いのかわからないという意見だった。資料1の16頁にも2号認定の数が1,490と記載されているが、これをどのように保護者に伝えてい

くかが大きな課題で、非常に心配している。見込みの数値が不十分だった場合は、この会議が責任を問われることになると思う。ちなみに、私が参加したこのジャムセッションは、東京・大阪・福岡で開催された、地方版子ども・子育て会議の委員を対象とした会議だったので、そういう類の会への出席や、情報を収集していく必要がある。

(野口委員長)

この国は走りながら考えなければいけないらしいので、計画を作りながら、次の見直しの時期までに継続的に議論していかなければいけない宿題になると思う。また、量の見込みはある程度の社会的変動を考慮しているわけではなく、桑名市が今後どのように変わっていくのかを含めて数字を弾き出すのが難しい。

(津田委員)

この会議の第1回目で、この会議は桑名市就学前施設再編実施計画と矛盾しないという事務局の説明があったと記憶しているが、そこがミソだと思う。我々、私立園関係者が、約2年間にわたって出席した再編計画委員会の答申の中身を、十分に尊重しながらこの計画を作っていたきたい。具体的にいうと、確保方策の部分で1号認定および2号認定の一部を公立・私立幼稚園で確保していくことになる。資料1の17頁では平成30年度の公立幼稚園が660人となっており、具体的な詳細は記載されていないが、答申および答申を出すに至った議論の経緯を十分に尊重していただいて、確保方策を作っていただくことをお願いしたい。

(野口委員長)

事務局の意見はどうか。

(事務局)

公立の部分については、就学前施設再編実施計画を基に算出している。その結果、平成27年度の750人から再編をしていく過程で、平成30年度が660人となっている。津田委員のご意見を加味しながら今後も検討を進めていきたい。

(野口委員長)

中間とりまとめとしては以上だが、今後の作業の流れによっては修正することも可能だと思うので、今後もしっかりと見極めていきたい。それでは、次の議題に移る。

(2) 桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の検討について【グループワーク】  
(資料2)

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

事務局の提案として、新規事業3つ、その3つを含めて重点施策が15となっている。まず、ここまでの部分でご意見等はないか。

(津田委員)

資料2の61頁の(4)の①に「公私立の壁をなくした情報提供」とあるが、私がこれまでの分科会で発言してきた主張とはちょっとずれている。現状では、私立幼稚園に通っている家庭の所得は、相対的にみると公立園に通っている家庭に比べて高い。つまり、所得によって選べる園が制限されていることになる。これを何とかしてもらいたいと、これまで何回も申し上げてきた。これについては、事業としては挙げづらいということは理解できるが、まったく触れられていないことを非常に残念に思う。先程、水谷委員から新制度に移行する私立幼稚園が少ないという説明があったが、移行しない理由は主に3つに集約できる。1点目として、新制度に移行すると園の収入が減る可能性が高いこと。2点目として、移行後の保育料が公立・私立で同額になるとは限らないこと。3点目として、新制度に移行すると管轄が市町村になり、我々の教育理念がこれまでどおり尊重されるのか不透明なこと。この会議でどこまで議論し、決めるのかわからないが、保育料等についてはぜひ皆さんにご理解いただきたいと思うし、この会議である程度議論していただきたいと思う。

保育料に関する資料の説明に5分程度頂戴したい。

(※ 津田委員配布資料に基づき説明)

(野口委員長)

非常に大事なご指摘だったと思う。具体的な事業としてこれを記載するのは難しいと思うが、配布された資料を基に11月の会議にでももう1度時間を設けたいと思う。

(津田委員)

どこかにエッセンスなりが入ってほしいと考えている。

(野口委員長)

委員会メンバーからの提言として、この会議で承認を得られれば文章化することも可能だと思うので、そういう取扱いにさせていただくことで本日はご理解いただきたい。

(松岡初文委員)

資料2の37頁の事業番号37に乳幼児健康診査とあるが、子どもたちの健康を守るには健康診査と予防接種の2本柱が重要なので、内容の説明文を「健康診査+予防接種」に変更していただきたい。

(事務局)

担当部署に確認して修正したい。

(野口委員長)

それではグループワークに移りたい。

### 【グループワーク】

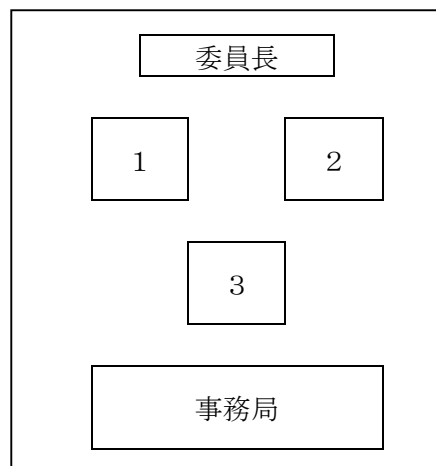
委員が車座になるよう席を配置変えし、各グループに分かれて検討を開始。

第1グループ：大橋了子、小竹広行、松岡初文、  
水谷秀史、

第2グループ：伊藤直和、稲垣陽子、松岡亜由美、  
松岡典子、横山悦子、渡部美紀子

第3グループ：伊藤香、加藤隆明、津田浩二、  
濱内洋孝、水谷美保

(敬称略、五十音順)



### 【グループワークの概要】

#### ■ 1 グループの討議概要

<施策・事業について>

- ・34頁の(1)の②母子の健康の保持と増進に「予防接種事業」を追記してほしい。「3乳幼児健康診査および予防接種事業」でも構わない。
- ・「アレルギーの子どもへの対応」を追記してほしい。「アレルギー」という単語が大事。目を引く。追記する場所は、(2)子どものすこやかな育ちを支える環境づくりの③個々の子どもに応じた支援の項。
- ・自分の子どもに特別支援が必要なことを認めない保護者への働きかけ、取組が大事。

<計画の名称について>

- ・計画の名称はこのままでいい。この会議の名称が桑名市子ども・子育て会議なので、ここで作った計画だということがわかりやすい。
- ・計画の名称を公募してはどうか。

#### ■ 2 グループの討議概要

<施策・事業について>

- ・「親支援プログラム」講座など分科会の意見が反映されていることは評価できる。
- ・「親支援プログラム」は具体的に何のプログラムをするのか気になる。少ない予算で

多くの人に届くものにしてほしい。

- ・資料2の29頁の図の【地域】または【関係団体】の中に、「子育て支援団体」や「NPO」を追記してほしい。どちらに入れるかは任せる。

<計画の名称について>

- ・計画名は「桑名市子ども・子育て支援事業計画」のままの方がわかりやすい。
- ・理念がきちんと伝わることが大事。

<その他>

- ・基本理念の冒頭は平仮名が連続してわかりにくいので、「つながろう」と「みんなのちから！」の間にスペースを入れた方がよい。
- ・写真の公募、使用に費用がかかるのであれば、イラスト等の方がよい。
- ・計画書の印刷部数はいくつか。配布先はどこか。予算の無駄遣いにはならないか。
- ・計画書の印刷にかかる予算を施策に振り分けてほしい。

### ■ 3 グループの討議概要

<施策・事業について>

- ・事業の目次のような、事業番号・名称と担当部署の一覧表がほしい。
- ・各事業の対象者を明記してほしい。
- ・事業番号9 幼稚園・保育所（園）と小学校との連携の促進について、園と小学校の円滑な接続は非常に曖昧なので、もっと具体的に表示してほしい。現状では、私立と公立で円滑さが異なるし、つながっていないと感ずることがある。
- ・事業番号10 幼稚園教諭・保育士の合同研修について、公立・私立で研修・交流の機会に格差がありすぎる。新たな研修会等の開催を想定しているのであれば、私立園の職員が参加しやすいよう配慮した事業にしてほしい。
- ・事業番号22 中高生と乳幼児との交流事業について、ごく一部の児童生徒だけでなく、より多くの児童生徒が参加できるようにしてほしい。
- ・事業番号11の「確かな学力」について、客観的な指標・目標を定めてほしい。
- ・事業番号13 食育の推進について、子どもが体験できる機会を増やして欲しい。食生活改善推進協議会の人負担が多くなりすぎないか。連携や支援の仕方まで含めて考えてほしい。
- ・事業番号30 児童生徒の意見発表の機会について、子どもの意見がまちづくりに反映されるか疑問なので、子どもの権利条約などに関する取組みをしてほしい。

(野口委員長)

計画を印刷物としておくことは大事なことだが、予算には限りがあるので、市ホームページに掲載する、リーフレットを作成するなどいろいろとアイデアを頂戴したい。

36頁以降に記載の各事業の説明には、それぞれ担当部署が記載されている。子ども・子育て支援事業には各課が関わっているので、どういうセクションが関わっているかが一目瞭然となるものがあってほしい。市民としては、何をどこに相談すればいいのかが一目でわかる資料が必要。その見取り図も含めて、計画書の体裁や作り方について次回までにご提案いただきたいと思う。

また、各事業の説明文がわかりにくい。誰にわかってもらうかによって、もうちょっと書き方も違ってくると思う。庁内の職員に向けてであればこれで良いと思うが、市民に向けてであればもっと書き込まないといけないと思う。今後事務局と精査していくが、委員の皆さんもしっかりと読みこんでチェックしてほしい。

グループワークの結果を簡単に発表してほしい。

#### 【各グループの発表（概要）】

(大橋委員（1グループ）)

資料2の34頁の乳児健康診査に「予防接種事業」を入れてほしい。アレルギーの子どもが多いので、「アレルギー対策」を「スクールカウンセラーの設置」のところに入れてほしい。

(松岡副委員長（2グループ）)

基本理念は「つながろう」と「みんなのちから！」の間にスペースを入れた方が良いという意見が出た。「親支援プログラム」が新規事業にあがっていることについて評価する意見が多かった。計画書の名称はこのままで良いという意見だった。写真の公募には費用がかかるので、公募すること自体に疑問があるという意見が出た。

(濱内委員（3グループ）)

事業の対象者が書かれていないので、担当課の下に受益者を明示した方が良い。現状と目標を具体的に記載して、次回に提示してほしい。

(野口委員長)

計画書は、多くの市民に知ってほしいことと、庁内の職員にしっかり知ってほしい点で、二頭立てで作成する必要があると思う。多くの人に知ってもらうためには、リーフレットを

配布するのが効果的だと思う。庁内職員に対しては、誰が、何を、いつ、どのようにやるのかを明確に書き込んでおいた方が有用だと思う。事務局への宿題として頑張っていたきたい。

(加藤委員)

スクールサポーターや民生委員等も色々な役割が期待されているので、それらの人の仕事も整理して一覧にした方が良い。また、担当部署が2課に分かれている事業があるので、担当部署を一本化して、それに付随する課としてまとめた方が良い。

(野口委員長)

私は色々な課が関わっていることが大事だと思うので、庁内会議でうまく調整されることに期待したい。

### 3. その他

(野口委員長)

津田委員からご指摘のあった保育料負担について資料があれば、次回の会議でご提示いただきたい。

(事務局)

はい。資料があればご提示したい。

(野口委員長)

本日の会議は以上としたい。ありがとうございました。

(以上)